

# 静岡神経医療センターニュース



<http://www.shizuokamind.org>

## 独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センターへの名称変更について

病院長 藤原建樹

当院は来年4月1日からの独立行政法人化に際して、独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センターとして名称変更しますのでお知らせいたします。てんかんを病院名に付するのは下の様な理由によります。

1. 当院の最大の診療機能であるてんかんを名称に付し、てんかんセンターとしての診療機能を明示することが最大の理由です。てんかんセンターとはてんかんの包括医療を行なう基幹施設を指します。てんかんの包括医療とは、医師、心理士、看護師、保育士、ソーシャルワーカー、作業療法士、理学療法士等の専門職が有機的に協力しあい、てんかんをもつ人々の複雑多岐な問題を解決するための多面的、学際的チーム医療とされています。診療科の側面からみても、てんかんはひとつの科が独占して済む疾患ではなく、神経科、精神科、小児科、さらには脳神経外科が有機的に連携し、各種パラメディカルスタッフとともに包括的に診る必要があります。てんかんセンターとは、てんかんをもつ人々を中心にあらゆる職種が協力して医療を提供する場とも言えます。

2. 厚生省難治てんかん研究班の調査によると、てんかんを発病して専門医療機関にたどりつくまでに平均14年を要していました。どこに専門病院があるのか世間の人は知りません。てんかんを病院名に付することは、専門病院を探している人々に役立ちます。

3. てんかんの名を表に出すと、この病気にまつわるスティグマゆえに患者が受診しにくくなるおそれもある。また、てんかんを差別することになりはしまいかと言う議論もあります。受益者団体である日本てんかん協会はこれと正反対の意見をもっています。てんかんが病院名として呼称されることは、てんかんがはじめて他の病気と同様に扱われることを意味し、最大の啓発活動となります。てんかんをもつ人々にとって、心臓病や癌と同様に、正面から取り組んでくれる病院が存在することこそが重要であり、かつ患者サービスとなります。日本てんかん協会は、当院がてんかんセンターと正式呼称することを切望しています。施設長へも要望書が届いております。

4. なお、重症心身障害、神経難病に対する専門医療は今後とも継続し、いささかの後退もあり得ません。また、名称以上に内容が大切なことは言うまでもありません。皆々様に満足していただけるよう、安全で質の高い医療の提供を職員一同心掛けて行きます。皆々様のご理解を賜りたくお願いいたします。

## 外来患者さまへ

### ☎予約制についてのお知らせ☎

#### 初めて来院される患者さまへ

お電話で予約して初診日をご相談ください。

神経内科 054-245-5446 内線 2312  
神経内科以外 054-245-5446 医事課 内線 2380

#### 再来の患者様へ

診察時に外来担当医が患者さまの予定と診察予定を考慮して、次の再来診察日を決め、「予約表」をお渡しします。その場で、患者さまの予定が立たない場合、又は後日、予約日を変更される場合は下記予約センターへご連絡ください。

#### 「予約センター」への連絡

神経内科 054-245-5446 内線 2312  
神経内科以外 054-246-1065 (直通)

\*予約または予約変更の連絡は前日までの月曜日～金曜日(祝祭日を除く)の午後1時30分から午後5時の間にお願いいたします。

これは、予約日以外は診察できませんということではありません。状態が変化した時などには、予約日以前に臨時で受診されても結構です。

〔ご注意〕

1. 担当医の急な出張などの際には、担当医が診察できないことがあります。
2. 急患などのために、診察時刻が予約時刻より遅れることがあります。
3. 休診のご案内は、「当院ホームページ <http://www.shizuokamind.org>」で更新しております。

### △外来処方箋についてのお知らせとお願い△

静岡神経医療センターでは、厚生労働省の指導のもと患者様が服用されております薬の安全性や有効性を高め、薬による害(副作用等)を未然に防止するため、患者様方のご理解とご協力をいただきまして、平成16年1月より原則すべての患者様に院外処方せんを発行させていただきますので宜しくお願い申し上げます。

#### 『医薬分業について』

現在では医療技術も飛躍的に進歩し、薬の開発も進み新しい薬を使用する機会も多くなっています。また、長期服用薬の増加、複数の医療機関のかけ持ち受診による薬の重複投与(成分や作用が同じ薬の投与)や相互作用(薬や食べ物との飲みあわせ)などによる副作用などから患者様を守り、患者様に薬についての正確な情報を提供して安全に使用していただくことが重要となっています。

そこで、医薬分業は、医師、歯科医師と薬剤師による薬の二重のチェックを行います。調剤薬局では患者様の体質にあった薬か、今までにその薬の副作用が出たことが無かったか、同じ作用の薬が他の医療機関から処方されていないかなどを調剤薬局(かかりつけ薬局)でチェックを行うことにより、薬の安全性や有効性を高めようとする制度で、そのために、社会全体のしくみとして医薬分業の制度が全国的に急速に進んでいます。

#### 『はじめて院外処方せんをご利用されます患者様、御家族の皆様へ』

院外処方せんについて、調剤薬局(かかりつけ薬局)などについて不明な点がございましたら、遠慮なく当院薬剤科の窓口へお申し出下さい。

平成16年1月1日

国立療養所静岡神経医療センター院長

# 医師勤務表

曜日	てんかん外来医師											
	初診				再診							
月	藤原	渡辺 <sup>雅</sup>	工藤		森川	福島	渡辺 <sup>裕</sup>	重松	宇留野	工藤		
火	井上	日吉	久保田 <sup>裕</sup>	下村	森川	福島	渡辺 <sup>雅</sup>	重松	宇留野	久保田 <sup>裕</sup>	下村	西田*
水	久保田 <sup>英</sup>	清野	重松		清野	福島	藤原	井上	日吉	大澤	久保田 <sup>英</sup>	
木	井上	中村	高橋		森川	福島	渡辺 <sup>裕</sup>	八木	日吉	大澤	中村	高橋
金	藤原	田中	脳外科	井上	森川	渡辺 <sup>裕</sup>	渡辺 <sup>裕</sup>	重松	宇留野	田中	脳外科	

\*西田医師は午前中のみ

\*\*脳神経外科医交替制

曜日	神経内科外来医師			
	初診		再診	
月	溝口	小尾	溝口	富山
火	山崎*	小尾	黒田	小尾
水	溝口	富山*	溝口	山崎
木		小尾	馬場 <sup>國</sup>	
金	溝口	小尾	溝口	小尾

・「物忘れ外来」

・「遺伝カウンセリング外来」

・「転倒予防外来」

・「ミオパチ外来」（第2金曜日午後）：杉江

\*の医師が優先的に診察いたします。

病棟		病棟医師									
重症心身障害	B1病棟	重松	宇留野								
	B2病棟	渡辺 <sup>裕</sup>	馬場 <sup>國</sup>								
	C3病棟	森川	馬場 <sup>國</sup>								
	C4病棟	福島	小尾								
神経内科	A2病棟	溝口	小尾	山崎 <sup>公</sup>	富山	黒田					
てんかん	A3病棟	三原	鳥取	松田	中村	馬場 <sup>好</sup>	大澤	梅岡			
	A4病棟	高橋	久保田 <sup>裕</sup>	山崎 <sup>悦</sup>							
	A5病棟	田中	日吉	下村	花岡						
	A6病棟	工藤	久保田 <sup>英</sup>	芳村	西田						

新春を迎え、今年の特ピックスをお知らせします。

パーキンソン病やパーキンソン症候群について治療の進歩があります。まず、パーキンソン病の新しいお薬が発売されます。このお薬は、パーキンソン病の症状に有効であるばかりでなく、神経保護作用といってパーキンソン病の進行を遅らせる作用も持っているという特徴があります。既に海外では使用されていましたが、いよいよ日本でも発売されることになりました。二番目には、やはりパーキンソン病の新しいお薬の治験（臨床試験）が始まります。このお薬は、症状の日内変動を少なくするという特徴があります。パーキンソン病ではドーパが有効であっても、服用してから2-3時間で効果が切れてしまうことがあります。この治験薬はこのような症状の変動を少なくするという効果があり、当院でも治験をおこなう事になりました。三番目は、パーキンソン病またはパーキンソン症候群に対する磁気刺激療法が可能になったことです。これは、頭部を磁気で刺激して運動障害を改善させるというものです。お薬による治療とは異なり、数日に1度刺激をおこなって治療します。この治療法は未だ研究段階であります。お薬によって症状が改善しない方には有効な治療法となる可能性があります。

以上、今春の特ピックスでした。今後、他の病気についても詳細が分かり次第お知らせします。

## 掲示板 / 質問箱

検査科：筋電図検査質問箱（神経内科では、神経・筋疾患の診療において筋電図検査をおこなっています。以下に、よくある質問とそのお答えについてまとめました）。

Q：筋電図検査ってどういう検査ですか？

A：筋電図検査といっても筋肉だけを検査するのではなく、体中の様々な神経の働き（刺激の伝わり方や感じ方）を総合的に見る検査です。

Q：どんな時に検査を受けるのですか？

A：手や足がしびれていたり、以前と比べて筋肉が痩せてきた、目が見えにくい、音が聴こえにくいなどの症状がある場合に行います。また、これらの症状がなくても、神経や筋肉の病気が疑われる時に行います。

Q：時間はどれくらいかかりますか？

A：検査の種類によっても変わりますが一つの検査は大体30分から1時間程度で終わります。

Q：どんな事をするのですか？

A：筋電図検査には大きく分けて二つの検査があります。

針筋電図：この検査は筋肉に針状の電極を刺して行います。筋肉に電極を刺すことで得られる波形を見て筋肉自体に問題があるのか、それともその筋肉を支配している神経に問題があるのかを鑑別する検査です。

誘発筋電図：この検査は様々な刺激を加えることによってその神経が正常に機能しているかどうかを調べる検査です。

刺激の種類には電気（電気といっても感電するわけではないので安心してください）、音、光などがあります。

これらの検査は専門の医師や臨床検査技師が行いますので安心して検査を受けてください。

Q：検査の時に何か注意する事はありますか？

A：検査によっては肩やふとももを出して頂くこともありますので、なるべくゆったりとした服装でお越しください。また、皮膚温（体の表面の温度）が低いと検査結果に影響してしまいます。特に冬場は暖かい服装でお越しいただき、手袋や厚めの靴下などをしてきて頂いたほうがいいかもしれません。

日頃、患者様によく聞かれることをお答えしましたが、もっと詳しく検査について知りたい、質問したい方は遠慮なく担当の医師や検査技師にお問い合わせください。

検査科：二見雅康

Q

A

## 第二回

## 放射線科

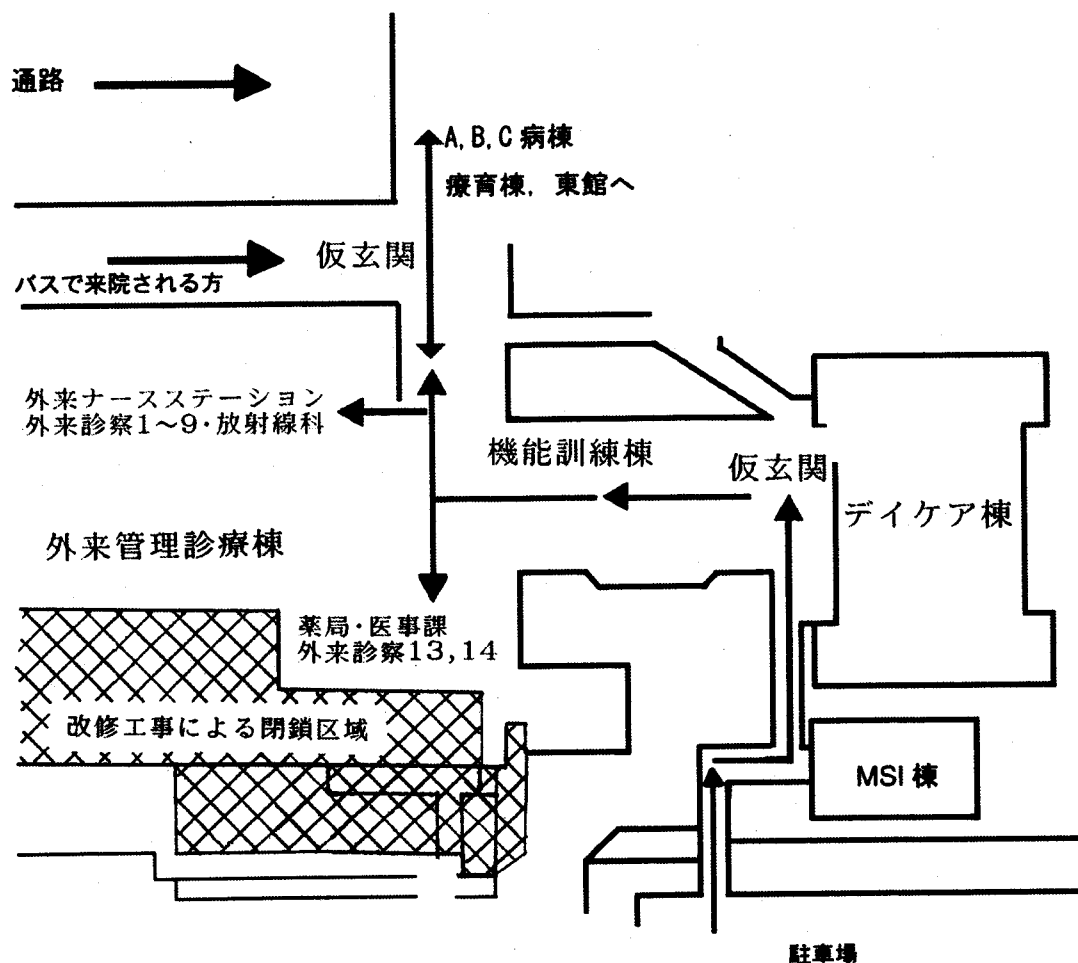
Q・エックス線検査以外に私たちは、放射線を受けているのでしょうか？

A・私たちは宇宙や大地、人間の体内や食物など自然界から様々なかたちで避けることのできない自然放射線を受けています。これは、地球ができた時から存在し、人間が地球上に出現した時からそれにさらされ続けているのです。自然放射線は一年間に約1.1ミリシーベルトの量で何時でも何処でも存在し、全ての人が受けてます。また、外国には自然放射線の量が大変多い地域があります。例えば、ブラジルのある地域では年間約10ミリシーベルトで、日本の約10倍の放射線を受けている地域もあります。このような地域を対象としたいろいろな調査が行われていますが、人体に対して放射線の影響が現れたという報告はありません。

Q・エックス線検査は、どのくらいの量の放射線を受けているのですか？

A・胸部エックス線写真一枚は約0.05ミリシーベルトです。一年間の自然放射線と比較すると約20分の1の量ですので、いかに少ないかわかりになると思います。

放射線科 杉本 学



## 正面玄関工事期間中の出入り口について

来年3月まで外来部門改修が続行中です。大変ご迷惑をおかけ致しておりますが、工事期間中は下の案内図を参考に案内表示に従って出入りくださいますようお願いいたします。廊下を歩いてみてもわからない時はお気軽にスタッフにお尋ねください。

## お出かけ日和に恵まれて

A4 病棟 看護師 和田真穂

A4 病棟では、長期入院の患者様と付き添いされているお母様方の気分転換を図り、よりよい治療環境を提供したいと考え、毎月の小行事を企画しています。11月は近くの有永公園への遠足でした。

涼しくて夏らしくなかった7月8月は、このまま秋になるのかと心配でした。その後、季節はずれの暑い日があり・・・11月に入ってそれほど冷え込むことなく、11月4日は絶好のお出かけ日和になりました。前日のどしゃ降り雨にどうなることかと思いましたがすばらしい雨上がりの秋晴れ、空気もおいしく感じられ楽しみにしていたお出かけが実現しました。みんな張り切って出発！

川沿いの道、広がる平野、遠くに見える山々みんな秋の装いです。よく晴れた空にヒヨドリの声が響き渡っています。昨日の雨で増水している川面にモンシロチョウの姿、枯れ葉とともに美しいコントラストで揺らいでいます。目指す有永公園まではちょっとした散歩コース。車もあまり通りません。みんなの顔がいつもとは違います。おいしい空気、優しい日差し、風のすがすがしさを全身で感じているようでした。

公園では、砂場でトンネルを作ったり、シーソー遊び、ジュースも飲みました。近くのスーパーでお買い物もしました。最後に藤棚の下で記念撮影パチリ。みんないい顔でした。

お昼までの短い時間でしたがとても暖かな、大事なひとときでした。病棟ではみられない子供たち、お母様のすてきな笑顔に乾杯！

少し疲れの見られる患者様もありましたが、心配していた発作もなく無事帰り着きました。お疲れの数人は、病院車のお世話になりました。みんなで力を合わせて楽しい一日を過ごせました。来月も楽しみ！

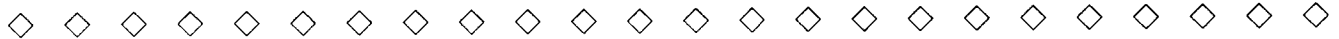


## 病棟指導の紹介

保育士 松永雅代

当院の療育指導室重心部門では入院中の患者様のニーズに合わせた指導を10月から新療育棟で再開しました。今回は就学前の患者様の発達援助を目的とした「年少児グループ」を紹介します。

現在の対象児は5名です。療育棟集団指導室で週1回、約1時間。保育士が1対1で担当しています。元気に挨拶をした後、1人ずつ歌で名前を呼びます。指導は集団指導と個別指導を行なっています。集団指導は患者様が楽しめる「手遊び」「シャワーボール上での揺らし」遊びです。個別指導は患者様の発達状況に応じて抱っこやトランポリンでの揺らし遊びや玩具でのアプローチを行なっています。指導時間中は、患者様達の笑顔や声と担当者の話かけによるやりとりが賑やかで楽しい雰囲気をかもし出しアツという間に時間が過ぎてしまいます。ぜひ、療育棟に足を運んでみて下さい。



### 編集後記

冬号のセンターニュースが出来上がりました。皆様のお手元には新春にお届けできると存じます。さて、現在ひきつづいてセンター前面部駐車場の工事に入っておりますので、まだまだ外来・病棟への道筋がわかりにくくて申し訳ございません。なお以前仮重心病棟（その前は運動場のスペースでした）は、新しく駐車場となり、皆様に御利用頂けるようになりました。そうしますと病院内への道筋は、概略地図の矢印のごとく2箇所からの出入り口があることが何とかかわかって頂けるのではないかと存じます。今回は外来・病棟ニュースに加えて、療育の記事も掲載いたしました。当院の包括医療の一端を、少しずつ紹介していきたいと考えております。

編集委員：浅井 学、石崎栄美子、小尾智一、杉本学、谷口陽介、二見雅康、森川建基、横地早苗

発行元：国立療養所静岡神経医療センター〒420-8688 静岡県静岡市漆山 886

TEL・054-245-5446 FAX 054-247-9781 ホームページ：<http://www.shizuokamind.org>